

児童虐待についてのアンケート調査結果

(北海道ユースプランナー制度プロジェクトチーム)

1 概要

北海道ユースプランナーに「児童虐待」についてアンケートを行い、若い世代の意識を調査するとともに、児童虐待相談窓口業務の検討の参考とする。

2 対象

北海道ユースプランナー(登録者 75 名)

3 実施期間

令和 4 年 (2022 年) 11 月 10 日~11 月 30 日

4 実施方法

北海道電子自治体共同システムの簡易申請機能を活用し、ユースプランナーが同システムのアンケートフォームから回答した。

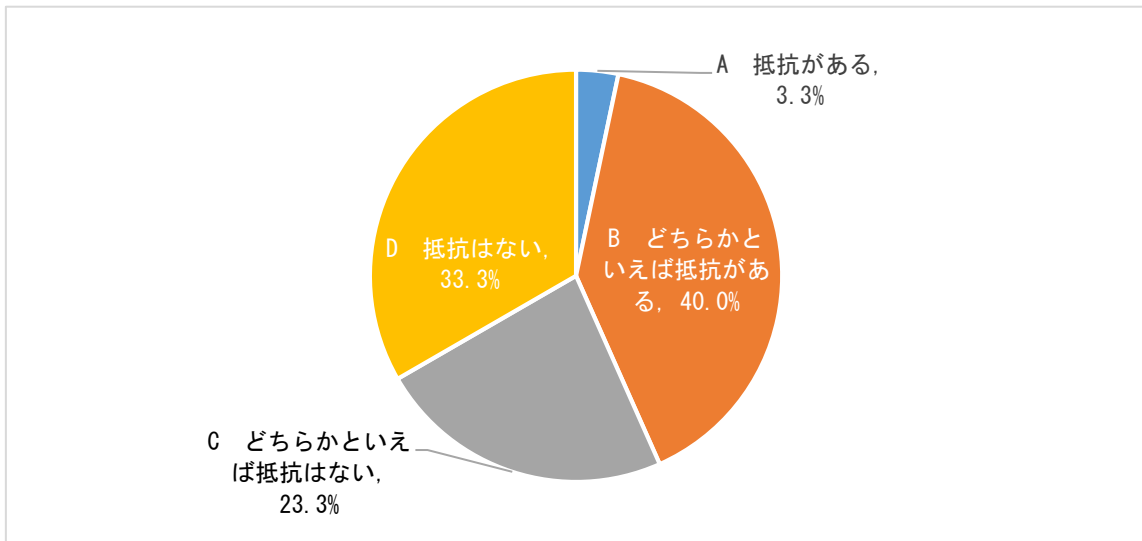
5 回答率

登録者(周知数) 75 名 回答者 30 名 回答率 40%

問1 あなたが児童虐待又はそのおそれを発見した場合、速やかに児童相談所や市町村役場の児童虐待対応部署に情報提供することに抵抗はありますか。

「どちらかといえば抵抗がある」を選択した方が最も多かったですが、全体で見ると「抵抗はない」、「どちらかといえば抵抗はない」の合計が56.6%と半数を超えました。

A 抵抗がある	1人 (3.3%)
B どちらかといえば抵抗がある	12人 (40.0%)
C どちらかといえば抵抗はない	7人 (23.3%)
D 抵抗はない	10人 (33.3%)



問2（1でA又はBと回答した方へ）なぜ、そのように思いましたか（複数回答）

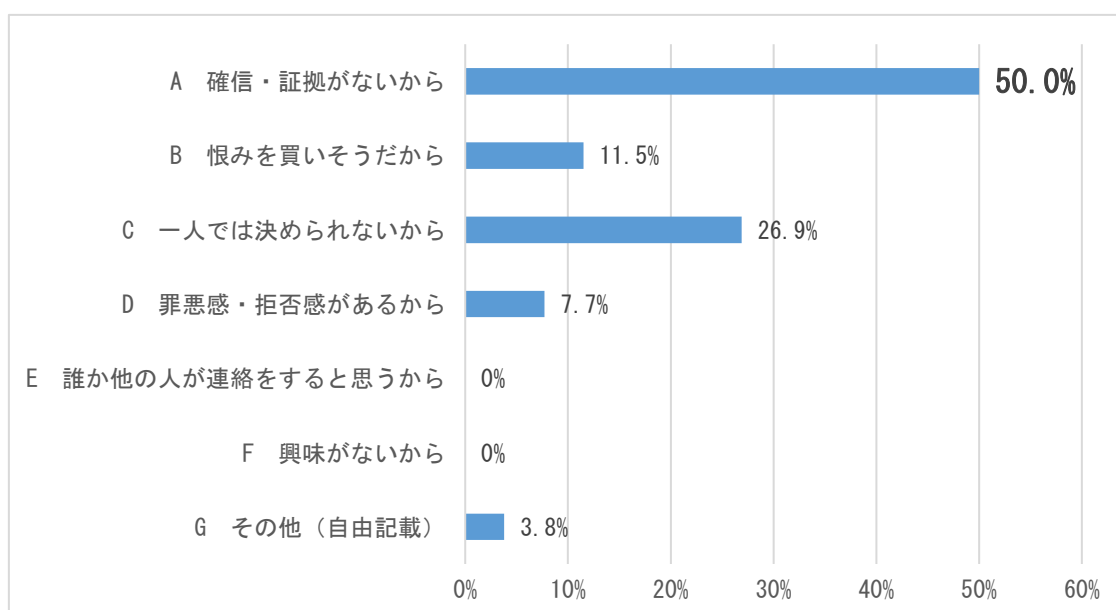
「確信・証拠がないから」が13人（50%）と最も多く、半数を占めました。一方、「誰か他の人が連絡すると思うから」、「興味がないから」と回答した人はいませんでした。

A 確信・証拠がないから	13人（50.0%）
B 恨みを買いそうだから	3人（11.5%）
C 一人では決められないから	7人（26.9%）
D 罪悪感・拒否感があるから	2人（7.7%）
E 誰か他の人が連絡すると思うから	0人（0.0%）
F 興味がないから	0人（0.0%）
G その他（自由記載）	1人（3.8%）

※その他の回答

児童相談所に連絡し、親と離れる、または離れるきっかけを作ることを子どもが望んでいるか分からないからだ。

虐待されていてもその子どもにとって親は愛すべき存在で、子どもの世界の全てである。子どもの気持ちがわからないからこそ、自分の正義感のみで児童相談所に連絡することは抵抗感がある。



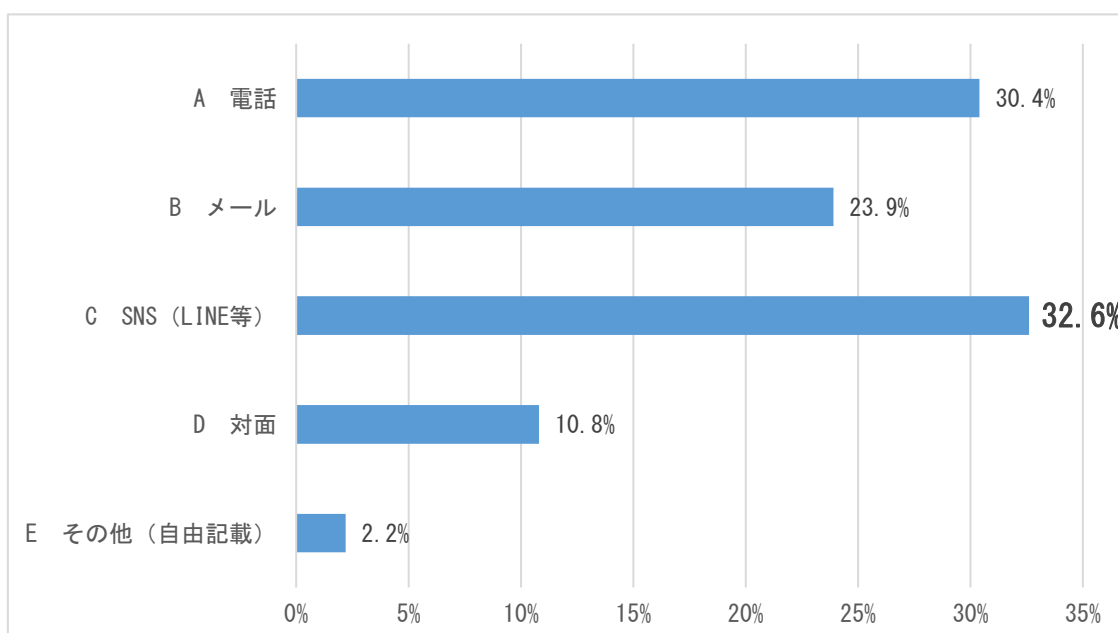
問3 児童虐待通告について、あなたが最も情報提供しやすいと思う媒体は何ですか

SNSの割合が32.6%と最も高く、次いで電話が30.4%という結果になりました

A 電話	14人 (30.4%)
B メール	11人 (23.9%)
C SNS (LINE等)	15人 (32.6%)
D 対面	5人 (10.8%)
E その他 (自由記載)	1人 (2.2%)

※その他の回答

アンケート形式



問4 児童相談所虐待対応ダイヤル「189（いちはやく）」を知っていますか。

7割の方が「知っている」と答えてくれています。

A 知っている	21人 (70.0%)
B 聞いたことはあるが詳しくは知らない	3人 (10.0%)
C 全く知らない	6人 (20.0%)

